



なばり

2012年(平成24年) 9月2日発行

主 内容

- 1……洪水・土砂災害ハザードマップを配布
- 2……肺がん・肺結核検診
- 3……私立幼稚園の補助金制度
- 4……下水道の日

ごみ収集
日程表は
次号に掲載

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp ㊚http://www.city.nabari.lg.jp

「もしも」を想定する ハザードマップ

災害
予測図

市では、「名張市洪水・土砂災害ハザードマップ」を新たに作成しました。平成15年に作成した「自主防災マップ」を更新し、洪水・土砂災害の危険箇所の最新予測を示した地図で、9月以降、各地区を通じて皆さんのご家庭に配布します。「もしも、災害が起これば危険箇所はどこか?どのように避難すべきか?」などをマップで確認し、事前に家族や地域で話し合う資料にしてください。そして、ご家庭では、いつでも確認できる場所に備えておいてください。

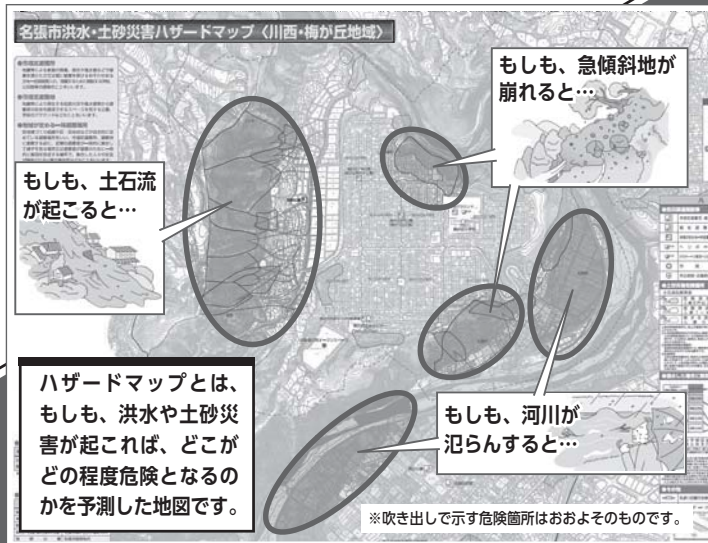
☎ 危機管理室 ☎ 63-7271



▼9月以降、ご家庭に配布します

市のホームページでも
ご覧いただけます

浸水予想区域や土砂災害危険箇所などを地図上(地域別)で確認できます。



洪水・土砂災害への備えや避難時の心得、風雨などの基礎知識、緊急連絡先もあわせて掲載しています。



「まさか」の想定外にも備えておきたい… [名張市防災講演会 (3月27日開催) での片田教授の講演より]



群馬大学大学院教授
片田 敏孝 さん

●名張市防災講演会…岩手県釜石市で防災教育を推進する片田教授が、津波襲来時、学校管理下にあった子どもたちが全員無事だった「釜石の奇跡」から、災害時の行動などについて訴えました。

東日本大震災では「防災の想定」にとらわれすぎたことが被害を拡大させたと考えられます。自然は何が起きるか分からないと思っていなければなりません。そして、時には、謙虚に避難しなければならないのです。「災害で危なくなったら、行政が避難勧告を出してくれる」と自分の命を守ることに主体性を持たない。そして「避難勧告が出てもたぶん大丈夫だから逃げない」という大人が、子どもたちに「逃げる」ということを教えられるはずがありません。そこで、震災前から、岩手県釜石市の子どもたちには、次のような「避難3原則」を伝えてきました。

- 想定にとらわれない…ハザードマップの浸水想定区域など、行政が想定する災害を超える災害が当然あると思わなければなりません。釜石市では、津波浸水想定区域の外側で多くの人が死亡しました。
- 最善をつくす…「ここまですれば大丈夫だろう」ではなく、そのときできる最善の対応行動をとるということです。
- 率先避難者になる…非常事態時、人は避難するという意思決定ができなくなります。まずは自分が避難することで、その姿を見た他の人も避難し、結果的に多くの人を救うことが可能になります。

⇒ハザードマップは、あくまで災害の予測図です。「自宅が危険箇所から外れているから安全」というわけではありません。

- 8月30日～9月5日は防災週間です…期間中は、FMなばり(83.5MHz)を通じて、市長が市民の皆さんに防災を呼びかけています。
- 「防災協力事業所」登録団体を募集中…医療や食品、土木など災害時にご協力いただける事業所や団体を募集しています。詳しくは危機管理室(☎63-7271)へ